

第 2 章 教育研究組織

①教育研究組織

●当該大学の学部・学科・大学院研究科・研究所等の組織の教育研究組織としての適切性、妥当性

【現状説明】

本学は、1962年に学校法人北星学園によって設置された大学であり、その教育研究上の基本組織として、文学部、経済学部、社会福祉学部の3学部が設置されている。文学部には英文学科、心理・応用コミュニケーション学科の2学科、経済学部には経済学科、経営情報学科、経済法学科の3学科、社会福祉学部には福祉計画学科、福祉臨床学科、福祉心理学科の3学科が設けられ、総数8学科で構成されている。

大学院研究科には、文学研究科、経済学研究科、社会福祉学研究科の3研究科が設置されている。文学研究科には言語文化コミュニケーション専攻（修士課程）、経済学研究科には経済学専攻（修士課程）、社会福祉学研究科には社会福祉学専攻（修士課程、博士〔後期〕課程）、臨床心理学専攻（修士課程）が設けられており、特に社会福祉学部においては学部から博士課程に至る教育研究組織が整備されている。

本学の学部生は、収容定員3,329人に対して3,803人が在籍しており、大学院生は収容定員69人に対して53人が在籍している。教職員数は教授77人、准教授27人、専任講師17人の計121人で、専任事務職員は92人である。

教育研究上の管理運営に関する諸問題は、各学科・研究科を単位とする学科会議、研究科委員会、その他の各運営委員会等の議を経て、学部教授会、大学教学会議及び大学院委員会で審議され運営している。また、全学的な事項及び学部間の調整が必要な事項については、部局連絡会において検討し、大学評議会で審議され運営している。部局連絡会は、学長、副学長、各学部長、スミス・ミッションセンター部長、事務局長で構成されている。

また、教育研究を支援する組織として図書館及び各センター（スミス・ミッションセンター、国際教育センター、エクステンションセンター、総合研究センター、総合情報センター、心理臨床センター等）を設置している。センターの下には委員会が置かれ、管理運営を行っている。各センターの概要は以下のとおりである。

【スミス・ミッションセンター】

建学の精神を具現化する活動を総合的に企画し、その実践を総括することを目的とする。「キリスト教の理解」「ボランティア」「平和の実現」「地域社会との連携」の4つの活動分野にワーキンググループを設置して活動を行っている。

【国際教育センター】

本学と外国の大学及び学術研究機関との教育研究上の交流を推進するとともに、本学学生の外国語運用能力及び国際理解の向上を図っている。

【エクステンションセンター】

北星オープンユニバーシティの講座を企画し、その実施を総括するとともに、学生及び学外の社会人のニーズに応じた各種講座を開くことにより、本学学生の多様な学習機会の確保と資格取得の支援に務め、社会人に生涯学習の場を提供している。

【総合研究センター】

本学教育職員の研究活動の活性化と研究水準の向上を図るための支援活動を行うとともに、本学のプロジェクト研究の拠点となり、あわせて学外からの研究委託を受諾する機関として地域社会に貢献している。研究成果の発表及び刊行に関する事項や、経済学部研究資料室の管理運営も行っている。

【総合情報センター】

本学の教育研究の情報化を総合的に推進する機関として、本学の情報システムの信頼性及び効率性を高めるとともに、情報処理に関する教育研究の水準の向上及び事務処理の効率化に資することを目的とする。情報処理教育、情報ネットワークの管理運営、学術情報データベースの構築、教職員の情報教育等の業務を行っている。

【心理臨床センター】

臨床心理学を専攻する大学院生等に対して実践的な教育訓練の場を用意し、本学の教員による臨床心理学研究を支援することを目的としており、あわせて臨床心理学の知見と手法を用いて地域住民が抱える心理的な問題を解消又は緩和するための活動を行っている。

このような教育研究組織により、本学の教育目標であるキリスト教による人格教育を基礎として人間性を培うとともに、社会性と国際性を豊かにする広い教養を身につけ、それぞれの専門の領域において、深く専門の知識・技術を修得し、応用力と実践力に富む有能な人材を養成して教育の実をあげ、一般社会、地域の産業社会に役立つ学術研究に努めている。

【点検・評価】

これまで本学は、時代の要請、社会のニーズに応じて、学部・学科及び研究科を設置し、教育研究組織を適切に拡充、整備してきた。3学部8学科、3研究科4専攻という現行の体制は2002年度に発足し、2005年度に完成年度を迎えたばかりである。今後はそれぞれの学部内で学科、専攻の構成が適切かどうかという議論が行われていくことになるが、現在のところ組織としては適切に機能していると言える。また、各学科の教育課程については常に見直しと検討を重ね、カリキュラムの充実を図っている。

図書館、各センター及びそれらを運営する委員会については、必要に応じて組織の見直しを行っており、最近では2005年度に大幅な大学管理運営体制の改編を行った。現在、改編から3年が経過しているが、部署によっては運営体制の再検討の必要性が出てきている。

【改善方策】

これまでの研鑽と努力により育ててきた基本組織について、将来の改善に向けて現状に甘んじる

ことなく、今後も常に学部学科及び研究科の教育研究上の点検・見直しを行い、社会のニーズを見据えた改善を行っていく。

各センターについても既存のセンターの充実・発展を図るとともに、運営体制に再検討の必要性があれば速やかに関係部署と連携して実施していくこととする。

【組 織 図】



